

犬山城 鎧四体

犬山城は多くの重要な戦いの最前線にあり、そのいくつかは城の征服をもたらしました。ここに展示されている鎧は、1584年の小牧・長久手の戦いで使われたと言われていいます。

日本で最も偉大な武将の2人、豊臣秀吉（1537-1598）と徳川家康（1542-1616）が戦いの中心的役割を果たしました。豊臣は12万人の軍隊を城に連れて行くとされ、防御を破り、近くの小牧山に軍隊が広がった徳川と戦争をしました。

日本の武士の鎧は、金属、革、植物などの材料の混合物で作られています。胴、籠手、脛当ては、弓や矢、剣、銃などのさまざまな武器から保護するのに十分な強度が必要でした。また、馬に乗っている人や歩いている人のために、軽量で柔軟でなければなりません。兜は、戦場で戦士が勇しく見えるように精巧に装飾されました。

地元住民は、後世に残すために4セットの鎧を犬山城に預けました。